

11月16日 精密光学部品製造会社と
企業立地協定締結



企業立地協定を結んだ株式会社テック電子工業の
迫口修会長(左から2番目)、迫口修志社長(左から3番目)

本市は、精密光学部品の製造・販売を行う「株式会社テック電子工業(本社:東京都大田区)」と企業立地協定を結びました。同社は平成4年から、福島地区にある宮崎工場で操業を行っており、事業拡大のため今回新たに北方地区に工場を整備し、来年度の4月に操業を開始する予定です。調印式には同社の迫口修志代表取締役社長らが出席。迫口代表取締役は「市民の方の雇用を積極的に行っていくなどして串間に貢献していきたい」と話していました。その他、県の立地企業としても認定され、県商工観光労働部企業立地推進局の平山文春局長より認定証の交付も行われました。

11月26日 今年もいこいの里にイルミネーション輝く

串間温泉いこいの里をイルミネーションで彩る「第5回本城イルミナイト」が始まりました。本城地区のにぎわい創出を目的に、同地区地域連携組織「まちづくり協議会『チーム本城』」が昨年に引き続き実施。同日行われた点灯式では、上篠原保育園児によるダンスや高松駐在所勤務の警察官による一瞬にして面が変わる中国の伝統芸「変面」の披露などが行われた後、カウントダウンに合わせて一斉に点灯。会場は大きな歓声に包まれていました。ダンスを披露した谷川菜侑ちゃんは「とてもきれいだった。また来年も見たい」と笑顔で話していました。



午後5時半~10時の間に点灯され、
期間は今月の29日までです

12月4日 認知症高齢者徘徊の
模擬訓練



徘徊者役に優しく声を掛ける参加者

北方地区地域連携組織「北方秋山郷の会」、串間市社会福祉協議会は、「認知症見守り声掛け模擬訓練」を秋山小学校体育館で行いました。地元住民ら約110人が参加。訓練は、徘徊する認知症高齢者を発見した際の対応の仕方を実践。徘徊者役を見つけると優しく声を掛けて安全な場所に移動させ、名前や年齢、体調などの情報を聞き出して警察役に通報しました。最後の振り返りでは「いつも同じ状況、同じ人ではないので柔軟に対応することが大事だと思った。積極的に声かけすることが早期発見、事故防止になるのではないかなど」の意見が述べられていました。

11月2日 串間の伝説を
手作り紙芝居で伝える

市内で活動している紙しばいサークルが大東小学校で読み聞かせを行いました。使用した紙芝居は、串間市教育委員会が作成した「串間の民話と伝説」を元に全て同サークルが手造り。児童たちは流調な串間の方言と手書きのイラストに心を躍らせながら聞いていました。難しい方言をイラストで理解し、面白い話だと分かると友達と顔を見合わせて笑い合う姿もありました。この読み聞かせは毎年、同校の文化教養部が教養や事故に気を付けてもらうことなどを目的として希望者をつのり実施。新型コロナウイルス感染症の影響で今年は3年ぶりの実施となり約30名が参加。6年生の中武ひめなさんは「串間弁が分かりづらいときもあったけど楽しかった。友達などに話したい」と話していました。



紙しばいサークル代表 中村すみ子さんの進行のもと
市内各地の民話や伝説を紹介しました

11月11日 東京五輪金メダリストが
レスリング指導



選手はスパーリングでも
須崎さんと一緒に汗を流しました

串間スポーツクラブは、東京五輪女子レスリング50キロ級で金メダルを獲得した須崎優衣さんを招いたレスリング教室を市民総合体育館で行いました。福島高校レスリング部やジュニアレスリングチーム「くしまグリーンホース」などの選手ら約40人が参加し、世界トップレベルの指導を受けました。選手は初めに須崎さんと一緒にウォーミングアップをした後、試合での悩みを話し、基本のディフェンスや足首をひねる関節技のアンクルホールドなどを、実演を交えながら教わっていました。串間中学校1年生の渡邊逸聡さんは「いい経験になった。教えてもらったことを試合で生かしていきたい」と話していました。

11月14日 体を動かしていきいき元気に

本市は、介護予防に取り組む「いきいき元気教室」のステップアップ講座を道の駅くしまのイベント広場、市民交流施設で行いました。市民約90人が参加。イベント広場では椅子を使い、串間音頭に合わせたエクササイズや骨盤底筋体操などを体験し心身をリフレッシュ。市民交流施設ではフレイル(虚弱)や認知症予防に関する講話が行われ、運動や会話をすることにより認知症予防につながることを理解していました。参加者の立本良子さんは「これからも健康でいられるよう、みんなで体操を頑張っていきたい」と話していました。



講師の動きに合わせて体を動かす参加者